

### 3. 中国上海地域に適するキュウリ, イチゴの耐病性優良新品種

〔要約〕日本及び中国の遺伝資源を素材として, 早生, 多収, 高品質で耐病性に優れ, 上海地域に適するキュウリ新品種「滬116号」と「滬119号」及びイチゴ新品種「申旭1号」と「申旭2号」を育成した。

国際農林水産業研究センター 生物資源部		連絡先	0298 (38) 6305	
上海市農業科学院				
部会名	国際農業	専門	育種	対象
				果菜類
			分類	行政

#### 〔背景・ねらい〕

中国上海地域では, 都市人口の増加や食生活の向上に伴って野菜の需要が増大し, 野菜の生産強化が急務となっている。主要野菜であるキュウリについては, 収量が低くべと病, つる割病に弱いなどの問題があり, 他方, 需要の伸びの著しいイチゴについても, 促成栽培に適する高品質・耐病性品種が求められている。そこで, 日中双方の遺伝資源を利用して, 早生, 多収, 高品質で耐病性に優れ, 上海地域に適するキュウリ, イチゴ新品種の育成を図った。

#### 〔成果の内容・特徴〕

1. キュウリ新品種「滬116号」は日本 F<sub>1</sub> 品種「れんせい」と「新光節成11号」を育種素材として育成した半促成栽培に適する早生 F<sub>1</sub> 品種である。雌花着生率が高く, 「新光節成11号」に比べて2割多収である。果実は棒形で, 果色が濃く, 溝, イボ, 刺が少なく, 品質が良い。べと病, つる割病に抵抗性である。
2. キュウリ新品種「滬119号」は, 日本 F<sub>1</sub> 品種「れんせい」と中国系統「019-2」を育種素材として育成した半促成栽培に適する多収性 F<sub>1</sub> 品種である。雌花着生率は高くないが, 生育後半まで安定した着果性を示す。果実は棒形, 濃緑で, 刺, イボが少ない。べと病, つる割病に抵抗性である。
3. イチゴ新品種「申旭1号」は, 日本品種「M-23」と「麗紅」を交配して育成した促成・半促成栽培に適する品種である。全収量は「とよのか」より多く果実が大きい。糖度は中程度であるが, 果皮が硬く日持ち性, 輸送性に優れる。上海の主炭そ病菌 *Colletotrichum acutatum* 及び日本の主炭そ病菌 *C. fragariae* にも「宝交早生」以上の抵抗性を有する。また, 上海の促成・半促成栽培では, 灰色カビ病も発生が見られず, 同病に抵抗性を有する。
4. イチゴ新品種「申旭2号」は, 日本品種「久留米49号」と「8418-23」を交配して育成した促成栽培に適する極早生品種である。年内収量は「とよのか」より多く早期収量が期待できる。果実の大きさは「とよのか」と同程度であり, 糖度及びビタミンC含量も高く品質に優れる。炭そ病菌 *C. acutatum* 及び *C. fragariae* に「宝交早生」以上の抵抗性を有する。

#### 〔成果の活用面・留意点〕

1. キュウリ新品種「滬116号」と「滬119号」の普及面積は約120haであり, 現在の普及地域は上海市, 浙江省, 江蘇省, 山東省, 四川省など13の省, 市, 地区である。両品種は華南型キュウリ産地の半促成栽培に適するが, 耐暑性は低いので夏季栽培には適さない。
2. イチゴ新品種「申旭1号」と「申旭2号」はともに上海近郊から揚子江流域を中心とする促成栽培に適する。

#### 〔具体的データ〕

表1 キュウリ新品種の特徴

育成系統及び品種	雌花着生率	1果重	果長	果径	1995年度			べと病 <sup>b</sup> 発病指数	つる割 <sup>c</sup> 発病指数
					早期収量 <sup>a</sup>	全収量	秀品率		
	%	g	cm	cm	kg/区	kg/区	%		
滬116号	74.0	150.8	24.0	2.9	16.9	47.8	85.8	35.0	39.3
滬119号	47.0	146.5	22.9	3.3	11.9	45.4	85.3	45.0	32.0
新光節成11号 (対照)	40.0	143.7	22.5	3.1	14.0	38.9	84.5	55.0	(62.0 <sup>d</sup> )

a: 収穫開始後2週間 (5/3~5/18) 1区: 7.5m<sup>2</sup> b, c: 幼苗接種検定 (b: 葉に点滴接種10/30, 調査11/4; c: 浸根接種9/19, 調査10/8) d: 供試品種は「楊行」

表2 イチゴ新品種の特徴

育成系統及び品種	年内収量	早期収量 <sup>a</sup>	全収量	商品果率 <sup>b</sup>	1果重	糖度	V. C. 含量	炭そ病萎凋・枯死株率	
								SC: 1-1 <sup>c</sup>	cf: 5-2 <sup>d</sup>
	kg/株	kg/株	kg/株	%	g	%	mg/g	%	%
申旭1号	0.06	1.24	3.10	92.3	11.1	8.9	0.95	0.0	33.3
申旭2号	0.47	1.93	3.37	92.5	10.2	9.5	0.98	16.7	16.7
とよのか (対照)	0.21	1.34	2.20	86.5	10.6	9.5	1.09	(16.7 <sup>e</sup> )	(50.0 <sup>e</sup> )

a: 収穫始~2月末 b: 4g以上の秀品果 c: *C. acutatum* の菌株 d: *C. fragariae* の菌株 (c, d共に噴霧接種11/14, 調査12/5) e: 「宝交早生」1区10株



図1 滬116号 (左) と滬119号 (右)

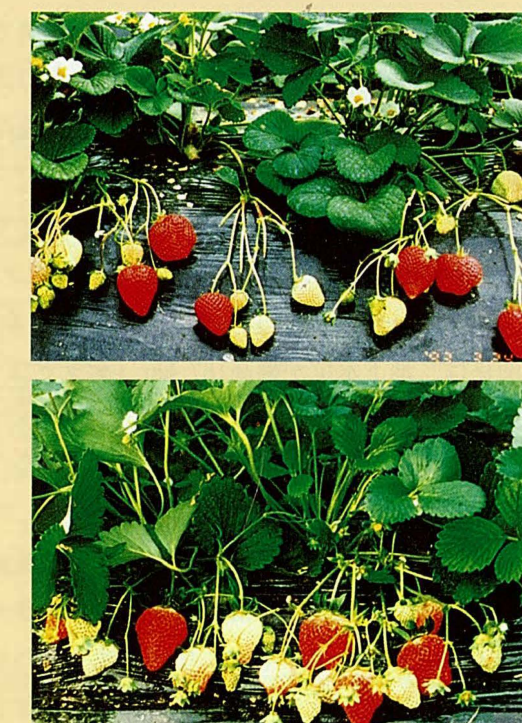


図2 申旭1号 (上) と申旭2号 (下)

#### 〔その他〕

研究課題名: 中国における果菜類等の耐病性優良系統の育成

予算区分: 国際農業プロ〔中国野菜〕

研究期間: 平成4~8年度

研究担当者: 杉山慶太 (国際セ)・野口裕司・坂田好輝・森下昌三 (野菜茶試)

許啓新・童克明・陳幼源・葉正文・陸世鈞・陳海榮・鄭宏清・余紀桂 (上海市農科院)

発表論文等: 杉山 他 (1997). キュウリ・ピーマン・イチゴの育種に関する研究. 杉山 他 (1997) 日

中共同研究論文集. 杉山 他 (1997). 新品種の育成と基礎研究.